

Long-term follow-up of cross-arch fixed partial dentures in patients with advanced periodontal destruction.

Evaluation of the supporting tissues

Yi SW et al. Acta Odontol Scand.1995; 53: 242-248

要説:

この研究の目的は、10年以上前に重度歯周病が治療され、固定性架橋義歯 (FPD) で補綴された患者の歯周組織の状態を評価することである。

FPDによって補綴された200人の重度歯周病患者群からランダムに選択された50人の患者のうち、34人 (43のFPD) が今回の臨床的・レントゲンの追跡研究の参加を承諾した。FPDはデザインによって3つのグループに分類された。

- ①グループ1: 両側に遠心支台歯のあるFPD
- ②グループ2: 片側カンチレバーのFPD
- ③グループ3: 両側カンチレバーのFPD

患者らは、口腔衛生指導、積極的歯周治療 (スケーリング & ルートプレーニング (SRP)、歯周外科処置、抜歯)、およびクロスアーチのFPDによる補綴治療を受け、治療後には、少なくとも年に1度リコールされ、必要に応じて再口腔衛生指導、SRPを受けていた。

結果:

70%のFPDは変わりなかったが、残りの30%のFPDは1本もしくはそれ以上の支台歯が抜歯され、何らかの修正が施された。問題があった30%のFPDのうち16%は抜歯などの理由によりFPDに改変が加えられていたが機能していた。すなわち、オリジナルのFPDの86%は機能していた。また、14%のFPDは、部分的にインプラント支持によるFPDによって置き換えられていた。オリジナルの274本の支台歯のうち、21本 (8%) は抜歯された。平均15年の追跡期間にわたって、歯周支持組織の長期的な変化はわずか

抜歯理由

274本の支台歯の内、21本 (8%) が抜歯された

根面う蝕	2本
エンド病変	7本
歯根破折	1本
フレームワークの破折	11本

(オリジナル論文より改変)

であった。FPDのデザインや、支持組織の量は、歯周組織の長期的な変化に対して大きな影響をあたえなかった。

失敗は経年的に増え、カンチレバーを用いることにより増加し、専門クリニックより一般の開業医で治療した患者でより多く起こった。

重度に歯周組織を喪失した患者における歯周治療と補綴治療を組み合わせた治療は、適切な歯周治療、補綴治療およびサポータティブ・ペリオドンタル・セラピー (SPT) が行われたならば、長期的に高い成功率を提供することが出来るだろう。

臨床への示唆:

適切な歯周治療と患者のニーズに合ったSPTを行っていれば、重度歯周病患者に用いられるクロスアーチブリッジのような大きな歯周補綴でも長期にわたり良好な結果が得られる。